

⑪需要に応じた生産構造転換への取組

【カネ十農園株式会社（牧之原市）】

生産性向上

■活用した事業

「茶・薬用作物等地域特産作物体制強化促進事業（令和4年度）」を活用して高濃度液肥を施用した施肥効果の検証及び肥料コスト削減への取組

「産地生産基盤パワーアップ事業（令和5年度補正）」を活用してコンテナ式大型乗用摘採機2台をリース導入

「ChaOIプロジェクト推進事業費補助金（令和3年度）」を活用して過熱蒸気対応型施設を導入

■経営の概況

お茶の栽培加工から販売まで一貫して手掛ける茶農園。経営面積は28ha。栽培品種は「やぶきた」、「つゆひかり」、「きらり」、「さえみどり」など。主な取引先は、国内大手ドリンク飲料メーカー、大手百貨店、大手雑貨店、自社HPを通じたネット通販、海外高級スーパー及び飲食店（カフェ）。主な輸出先は台湾、マレーシア、シンガポールなど。

■取組内容

肥料費削減

ドリンク原料茶については、経費を抑え一定の収量と品質（アミノ酸、窒素含有率等）を確保することが課題となり、高濃度の液肥（硫酸アンモニウム）を乗用型管理機の噴霧ノズルに装着し、局所散布を実施。その結果、畝間への施肥効果が上がり品質が向上。肥料コストは従来と比較して10a当たり約25%削減。

生産構造転換

過熱蒸気対応型蒸機整備により、蒸熱工程の安定と下級茶対応への幅が広がり、製造するドリンク原料茶の品質が向上し、契約取引面積が拡大した。

また、管理圃場面積の拡大に伴い、コンテナ式大型乗用摘採機（鹿児島型）を導入。収穫に要する作業時間の短縮及び作業効率の省力化を実現。



茶園の様子



カネ十抹茶



水出し煎茶



カネ十アールグレイ

<写真：カネ十農園>